

令和7年度 前期 学校評価 結果と分析

気仙沼高校 全日制

1 実施日および回収率

- 生徒調査 : 7月8日～16日 回答数590人/全生徒数595人 (回収率99.2%)
 - 保護者調査 : 7月1日～16日 回答数388人/全世帯数563人 (回収率68.9%)
 - 教職員調査 : 7月1日～16日 回答数53人/全職員数53人 (回収率100.0%)
- *保護者の分母は兄弟姉妹の重複を考慮し、世帯数とした。

2 アンケートの概要

本校の教育全般にわたる教育計画および教育活動にかかる点検・評価を行うために、学校評価委員会(6月16日(月))の審議を経て、令和7年度前期学校評価を実施した。

3 分析

(1) 分析の方針

グラフは今回の学校評価と前年度の同時期の学校評価とを比較できるよう並べて作成した。また、各評価項目において「そう思う」と「大体そう思う」をあわせた割合の高いものまたは昨年度と比較して肯定的な評価の割合が増加した項目と低いものまたは肯定的な評価の割合が減少したものを、それぞれ「○肯定的評価の高い項目」、「●肯定的評価の低い項目」として、生徒・教員・保護者の別にまとめた。(数値は全て%)

(2) 分析と考察

①生徒

- 「1 気仙沼高校では、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。」

	1年	2年	3年
R6	97.0	97.5	94.6
R7	98.9	99.0	97.0

3学年全てで、肯定的評価が95%以上かつ前年度の評価を上回った項目の1つである。(他は「4 適切な進路指導」「6 活発な部活動」) スクールポリシーについては、入学時やPTA総会、学校ホームページなどへの掲載で主に周知しているが、その他にもスクールポリシーをかみ砕いた形で、全校集会などで、校長のメッセージとして、気仙沼高校がどのような生徒を育成したいのかを伝えている。

これからの時代に必要となる資質・能力については、各クラス通信や進路通信、学年便りなどでも明確にしており、どのような方針で学校運営がなされているか生徒目線で評価された結果であると考えられる。

- 「6 気仙沼高校では、部活動は活発に行われている。」

	1年	2年	3年
R6	98.5	98.5	96.8
R7	98.9	99.5	97.0

部活動については、昨年度のフェンシング部の全国優勝やマンドリン部の2年連続全国総合文化祭への出場、同じく文芸部の全国総合文化祭への出場など、全国で活躍する部活動が複数あることや、野球部の甲子園県予選や各文化部の定期公演観覧など、友人が活躍している姿を応援するといった姿勢が見られる。部員数や活動実績については、それぞれの部活動で違いは見られるものの、そのような姿勢が、学校への愛着心や愛校心の肯定的な評価に繋がっていると推察される。スクールミッションに掲げている文武両道の精神を大切に、今後とも実績だけにとらわれない部活動の充実を図っていききたい。

● 「15 あなたは授業以外の学習時間を確保している。」

	1年	2年	3年
R6	77.5	84.1	86.0
R7	74.3	75.4	88.1

3年生では、昨年度と比較して肯定的な評価が若干増加しているが、全質問項目の中で、各学年共に肯定的な評価が低い項目である。昨年度は、2、3年生が約85%の肯定的評価だったが、今年度は1、2年生で約75%の肯定的評価であり、結論として授業以外の学習時間が十分に確保できていない状況であることは間違いない。1、2年生は学校においては部活動の中心であり、近年は探究活動も総合的な探究の時間以外で、それぞれが各自のテーマに沿って探究を進めていくスタイルとなっている。探究の時間を学習時間と捉えるかどうかは難しいところだが、学習時間の確保については、時間の有効活用の仕方などを含め改善及び指導の充実を図っていききたい。

生徒からの評価については、「14 充実した学校生活」「4 適切な進路指導」の項目で、昨年度と同様に肯定的な評価が高い。上記でも述べたが、15番のみ肯定的評価が1、2年生で70%台ということを見ると「充実して忙しい毎日」を過ごしている本校生徒の姿が浮かび上がってくる。学校生活においては、今後とも個に応じた指導の充実を図っていききたい。

②保護者

○ 「1 気仙沼高校では、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。」

	1年	2年	3年
R6	96.7	94.6	95.4
R7	99.2	94.7	89.6

昨年度に引き続き、肯定的な評価が高い項目である。昨年度と比較して3年生保護者からの評価がやや低くなったものの、全質問項目のうち一番評価が高い。スクールポリシーについては、前述のとおり各場面において周知しているが、部活動の充実や地域社会研究や課題研究などの学校設定科目など特色ある教育課程を展開していることが保護者に認知されており、一定の評価に繋がったと推察される。

○ 「13 気仙沼高校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている。」

	1年	2年	3年
R6	64.8	51.2	72.0
R7	73.2	70.1	60.9

全質問項目の中で、高い評価とは言えないものの、昨年度と比較して改善された項目である。いじめ問題に対する取組方針の保護者との共有については、昨年度は特に2学年で肯定的評価が5割程度といった低い評価であった。今年度は、昨年度の学校評価の結果を受け、PTA 総会でいじめ問題への取組方針を保護者向けに周知した。また、学校生活アンケート実施の際は、アンケート実施についてクラッシーを利用し保護者へ周知した。結果として、1、2年生の保護者において肯定的評価が7割になるなど、昨年度から改善が見られた。しかしながら、まだまだ十分とは言えない状況であることから、今後とも様々な場面で保護者への情報提供を図っていききたい。

● 「15 お子さんは授業以外に学習時間を確保している。」

	1年	2年	3年
R6	65.4	66.9	71.2
R7	55.1	58.8	77.3

昨年度と比較し、3年生の保護者からの評価は改善傾向にあるが、1、2年生ともに保護者からの評価が低い状態である。生徒向けアンケートにおいても本項目は肯定的評価が低い状況にあり、家庭での学習時間が十分に確保されていない現状にあることを生徒・保護者とも認識しているといえる。

本調査ではないものの、先日（令和7年7月31日）の国立教育施策研究所実施の経年変化分析調査

においても、家庭での学習時間が減少していること、スマートフォン等の使用時間が増加していることなどが公表された。今回のアンケートでは、学習時間の減少がどのような要因によるものか特定はできないが、学習時間の確保、スマートフォン等の利用の仕方などの指導を充実させていく必要がある。

全体として、保護者の学校に対する評価は、昨年度と同様に「部活動や学校行事は充実しており、子供は学校生活に満足している。学校からの情報伝達はやや改善された。家庭学習はもう少し頑張っ
て欲しい」といった評価であると捉えることができる。部活動や各種行事など様々な取組で学校生活の満足度を低下させずに、家庭学習の時間をどう捻出できるか、スケジュール管理やスマートフォン等の利用も含めた指導が今後の課題であると思われる。

③教職員

○「6 私は生徒が進んで課題を追求する態度を育てる授業を行っている。」 R6 89.1
R7 93.5

昨年度と一昨年度ともに、肯定的評価の割合が1番改善した項目である。主体的に課題を追求する態度は、学習評価の観点であるとともに本校で推進している探究活動にとっても必要不可欠な資質・能力である。教科横断的な視点での授業改善と、主体的に学習に取り組む態度の醸成を今後とも進めていくことが学力向上の鍵である。

○「13 学校全体で清掃活動に取り組み、校舎は衛生的に管理されている。」 R6 83.0
R7 90.6

昨年度、最も肯定的な評価が減少した項目である。今年度は、最も肯定的な評価が増加した項目となった。清掃活動については、7時間目が終了した短い時間で効率的に実施するという時間的な制約があり、今年度も枠組みとして大幅な変更は実施していない。昨年度の学校評価を振り返り、短い時間で効率的かつ効果的に実施しようという意識が向上した結果だと思われる。今後とも職員が生徒の見本を示すという観点から、日々の清掃活動に取り組んでいきたい。

●「8 本校では基本的な生活習慣を身につけさせる指導が十分に行われている。」 R6 86.5
R7 83.0

全質問項目の中で、最も肯定的な評価が減少した項目である。最も肯定的な評価が低い項目は、この他「9 生活指導に対する共通理解・協力的実践」であった。基本的な生活習慣や生活指導における共通理解といった項目は、指導する教員の主観的な判断に左右されやすい部分がある。普段の生徒の様子から、生活態度に関する指導場面が少なく、生徒の生活態度は概ね良好であるが、生活習慣としてどこまでを指導対象とするのか、どのような価値観を良しとするのかなど、教職員の年齢層や経験年数などによっても変化し、共通理解を図ることが難しい部分もある。現在は、生活様式1つをとっても様々であり、共通理解や共通の認識という事柄も立場によって変化する可能性がある。教員間はもちろんのこと、家庭や地域社会とも丁寧な対話を大切にし、生徒にとって身につけて欲しい生活習慣は何かといった部分から相互の協力体制の構築をしていく必要がある。